

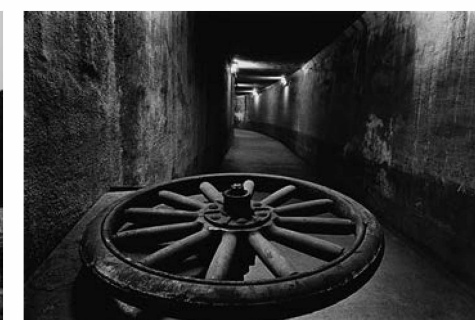
奈良原一高

「無国籍地」/「人間の土地」

Narahara Ikko: “Stateless Land” / “Human Land”

会期 2022年11月1日|火|–12月27日|火|

会場 近現代美術室B



ならはらいっこう
奈良原一高（1931-2020）は、福岡県大牟田市に生まれ、東京ほか欧米各地を活動の場にした写真家です。父の転勤に伴い長崎をはじめ各地を転々とした奈良原は、早稲田大学大学院在学中の1956年に個展「人間の土地」でデビューを飾りました。その後、「王国」「消滅した時間」など、自身の人間観を探求する作品を発表し、戦後を代表する写真家の一人となりました。

福岡市美術館は2021年度に作家のご遺族より寄贈を受け、主要な6つのシリーズからオリジナルプリントを中心に211点を収蔵しました。

本展では、その中から、実質的なデビュー作である「人間の土地」シリーズ、同時期に撮影され、「人間の土地」のプロローグと言える「無国籍地」シリーズの一部をご紹介します。2つのシリーズは、日本の社会状況を象徴する場所を映すドキュメンタリーでありながら、虚脱感と共に終戦を迎えた作家自身の心情も映し出します。

〔学芸員 忠 あゆみ〕

左：《題不詳（「無国籍地」より）》撮影：1954年、プリント：1987年
右：《緑なき島 軍艦島：地下道（「人間の土地」より）》撮影：1954-57年、プリント：2016年
©NARAHARA IKKO ARCHIVES



福岡市美術館
FUKUOKA
ART
MUSEUM

〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051（代表）
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

32 火の山の麓 黒神村：
— 雨の日の熔岩の入江（「人間の土地」より）
Village at the Foot of the Volcano—
Kurokamimura: Lava-bound inlet in
rain : Human Land
1954-57（プリント1986）
21.8×33
ゼラチンシルバープリント
gelatin silver print
1-F-602

33 火の山の麓 黒神村：
— 月の出の入江（「人間の土地」より）
Village at the Foot of the Volcano—
Kurokamimura: Inlet at moonrise :
Human Land
1954-57（プリント1999）
33×21.5
ゼラチンシルバープリント
gelatin silver print
1-F-603

奈良原一高 略年譜

作成にあたり『奈良原一高 手のなかの空 1954-2004』（島根県立美術館、2010年）図録所収の薦谷典子編『奈良原一高年譜』、『奈良原一高 王国』（東京国立近代美術館、2014-2015年）を参考にした。

1931年 福岡県大牟田市で生まれる。本名・橘原一高。父は、佐賀地方裁判所の判事をしていた。父の転任につれて佐賀から久留米、小倉へ移る。

1934年 父が長崎地裁の判事となり、一家も長崎に移転する。長崎は、生涯忘れられない思い出となる。

1934年 父の転勤に伴い、愛知県に転居。

1945年 終戦直前には毎晩空襲に遭った。敗戦を一宮郊外にある禅寺、東林寺の離れの仮住まいで迎える。

1948年 4月、父の転勤に伴い、鳥取に転居。この頃、現像・密着など写真の基礎技術をマスターする。

1950年 4月、中央大学法学部に入学。父の勧めに従い、司法官の道に進む。

1951年 3月、大学2年の春休み、実家が奈良にあったので、仏像を見て歩く。これを機に法律の道から美術史研究へ転向する。

1954年 3月、中央大学法学部卒業。
4月、早稲田大学大学院芸術専攻（美術史）修士課程に入学。
九州周遊の旅に出て、鹿児島県桜島・黒神村と長崎沖合の人工島・端島（通称「軍艦島」）の生活に衝撃を受ける。「人間の土地」「無国籍地」の撮影を開始。

1955年 4月、新鋭画家グループ「実在者」に客員として参加。
4月、新しいリアリズムを目指したグループ「制作者懇談会」の結成に参加。池田龍雄や河原温と交流。

1956年 5月、個展「人間の土地」開催（東京・松屋ギャラリー）。
8月、「緑なき島」『カメラ』（アルス）掲載。
8月、「無国籍地」『photo35』（新日本写真会）掲載。
8月、「王国」の舞台となる和歌山的女子刑務所を訪れる。
9月、「緑なき島」『アサヒカメラ』（朝日新聞社）掲載。

1957年 2月、「廃墟のロマン—無国籍地の連作より—」『ロックール』No.22（ロックールクラブ）掲載。
4月、「無国籍地より—鉄の造型—」『ロックール』No.24（ロックールクラブ）掲載。
5月、「10人の眼」展に出品。美術評論家・福島辰夫、奈良原、細江英公らを中心とした新進気鋭の写真家によるグループ展。
5月、「人間の土地」『中央公論』（中央公論社）に掲載。

1958年 6月、「王国」のために北海道トラピスト修道院と和歌山的女子刑務所を7月にかけて集中的に撮影。
9月、「王国」『中央公論』（中央公論社）に掲載。
個展「王国」（東京・大阪・富士フォトサロン、9日-15日）第2回写真批評家協会新人賞受賞。

1959年 5月25日、川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、細江英公とともに自主運営による写真のエージェンシー「VIVO」を結成。
10月、第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞。

早稲田大学大学院修士課程修了。

1964年 初めてヴェネツィアを訪れ、神秘的な都市の姿に魅了される。

1965年 アメリカ・ニューヨークを経由してヨーロッパから帰国。

1966年 4月、東京造形大学の教授に就任。
『カメラ毎日』（毎日新聞社）に日本の伝統文化をテーマにしたシリーズ「日本図譜」を連載。

1967年 5月、写真集『ヨーロッパ・静止した時間』（鹿島研究所出版会）を刊行。
同写真集が第11回写真批評家協会作家賞受賞。

1970年 2月、写真集「ジャパネスク」（毎日新聞社）を刊行。
春、渡米しニューヨークを中心に4年間滞在（～1974年）。滞在中、ダイアン・アーバスのワークショップへ通う。2度のアメリカ大陸横断旅行。

1975年 写真集『消滅した時間』（朝日新聞社）刊行。

1980年 個展「ベネチアの光」（東京・新宿ニコンサロン、大阪ニコンサロン）

1983年 5月、個展「夜光都市・ベネチア」（銀座ニコンサロン、新宿ニコンサロン）

1985年 7月、写真集「ヴェネツィアの夜」（岩波書店）刊行。
個展「光と闇・二つの世界」（韓国・ソウル・ウォーカー・ヒル美術館）

1986年 『ヴェネツィアの夜』が第33回日本写真協会年度賞受賞。

1987年 5月、「ヴェネツィアの光」（流行通信）刊行。

1996年 紫綬褒章受章。

1999年 九州産業大学大学院教授に就任。（～2005年）

2004年 5月個展「奈良原一高展 時空の鏡—シンクロシティ」（東京・東京都写真美術館）
日本写真協会賞功労賞受賞。

2005年 奈良原一高アーカイブズを設立。旭日小綬章受章。

2006年

2020年 死去。

※ 記載は、題名(日英)、制作・プリント年、技法・材質(日英)、画面寸法(縦×横cm)、当館分類番号である。すべての作品は2021年 梶原恵子氏 (奈良原一高アーカイブズ)より寄贈。

1. 無国籍地

1954年、奈良原は帰省の途中に立ち寄った大阪城内にあった大阪砲兵工廠跡が目にとまり、撮影を開始。続いて東京都・王子の軍需工場跡を撮影した。二つの場所は明治時代より軍事拠点であった場所であり、1956年当時には空襲を受け、廃墟と化していた。

役割を終えオブジェと化した煙突や標識、打ち捨てられたトタンといった被写体は、作家にとって心地がよいものだった。晩年、被写体への印象を「文明の果てにある、凡てを失ったものの持つ安らぎがあった。もう失うものは何も無い、静謐だけがそこにあった」と述懐する*。

奈良原が感じた「安らぎ」は、自身の終戦体験と結びついている。奈良原は、少年時代に学徒動員のため軍需工場で働き、航空機製造に携わっていた。爆撃機を間近に仰ぎ「生きることが全て」であった奈良原は、終戦を迎えて死と隣接した日常から解放たれ、爆撃機のない真っ青な空を目にした。廃墟となった軍需工場にもまた、彼が少年期に感じた青空と同質の虚無と安らぎが感じられたのである。

奈良原はこれらの作品を1956年に雑誌『photo35』で発表。翌年、雑誌『ロッコール』にも掲載した。生きる手がかりを探るようにシャッターを切り続けた作家の、出発点となるシリーズである。

*奈良原一高『未来の旅立ち』（『無国籍地-1954』クレオ、2004年、p.47）

1 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント2020） 32.8×21.5 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-604	2 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 33×22 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-609	3 銃口No.21（「無国籍地」より） Muzzle No. 21 : Stateless Land 1954（プリント1987） 22.1×33 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-610
4 春の壁（「無国籍地」より） Spring Wall : Stateless Land 1954（プリント1987） 33×21.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-611	5 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 33.0×22.7 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-613	6 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987）33×21.1 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-616
7 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント2020） 21.7×32.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-617	8 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 22.4×33 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-618	9 破壊された窓（「無国籍地」より） Broken Windows : Stateless Land 1954（プリント1987）33.2×21.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-620
10 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 33×21.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-622	11 ひからびた壁（「無国籍地」より） A Deserted Wall : Stateless Land 1954（プリント1987） 33×21.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-623	12 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 33.2×21.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-624
13 題不詳（「無国籍地」より） Title Unknown : Stateless Land 1954（プリント1987） 22.5×33.0 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-625		

2. 人間の土地

「人間の土地」は、「火の山の麓 黒神村」「緑なき島 軍艦島」の二部構成からなる連作。1954年春、大学2年生の春休みに奈良原は九州一巡旅行を行い、鹿児島県桜島内の集落・黒神村と、長崎にある人工炭鉱島、端島（通常「軍艦島」）を訪れた。黒神村は長い間噴火の脅威に見舞われながら人々が暮らしてきた場所であり、一方軍艦島は、1960年代まで海底炭鉱として栄え、炭鉱労働者とその家族たち約4600名がひしめくように暮らした。2つの限界状態を生きる人々を捉えることで人間の存在を浮き

彫りにできると考えた奈良原は、2年かけてこれらの場所を撮影した。

1956年、東京の松島ギャラリーで開催した個展「人間の土地」で完成作を発表し、ほぼ無名だった奈良原は写真家として実質的なデビューを果たす。評価を決定づけたのは、奈良原が単に場所を記録しているのではなく、人間とは何かという自らの問いを投影している点である。こうしたアプローチを奈良原自身は「パーソナル・ドキュメント」と呼んだ。1950年代、土門拳らの提唱するリアリズム写真が主流となっていた写壇に新風を巻き起こし、福島辰夫の主導による新世代の写真家たちのグループ展「10人の眼」への参加、細江英公、東松照明ら写真家たちが社会を詠った共同事務所「VIVO」の結成など、のちの活動に展開した。また、二つのテーマを対比させる連作のスタイルは、のちに女子刑務所と男子修道院を主題とした「王国」シリーズに引き継がれる。

14 緑なき島 軍艦島： — 時化（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: In stormy weather : Human Land 1954-57（プリント1997） 32×47.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-577	15 緑なき島 軍艦島： — 岩壁（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: The sea wall : Human Land 1954-57（プリント1986） 32.2×48.0 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-579	16 緑なき島 軍艦島： — 地下道（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: The tunnel : Human Land 1954-57（プリント2016） 31.9×47.3 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-580
17 緑なき島 軍艦島： — 雪の貯炭場（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: Snow on the coal-storage yard : Human Land 1954-57（プリント1997） 31.9×48.2 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-581	18 緑なき島 軍艦島： — 浴場（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: In the communal bath : Human Land 1954-57（プリント1986） 21.9×33 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-582	19 緑なき島 軍艦島： — 浴場（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: In the communal bath : Human Land 1954-57（プリント2020） 33×21.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-583
20 緑なき島 軍艦島： — アパート俯瞰、昼景（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: Overhead view of apartments in daylight : Human Land 1954-57（プリント1999） 32.9×21.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-584	21 緑なき島 軍艦島： — アパート（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: Apartments : Human Land 1954-57（プリント1986） 33×21.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-585	22 緑なき島 軍艦島： — 潜水服のある風景（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: View with diving suit : Human Land 1954-57（プリント1997） 48×31.7 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-586
23 緑なき島 軍艦島： — 海を見る少年（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: Boy watching the sea : Human Land 1954-57（プリント1997） 32×48 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-587	24 緑なき島 軍艦島： — アパートの屋上（「人間の土地」より） Island Without Green—Gunkanjima: Apartment rooftop : Human Land 1954-57（プリント1997） 48.1×32.0 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-589	25 火の山の麓 黒神村： — 夜の熔岩（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Lava at night : Human Land 1954-57（プリント1987） 48×31.7 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-591
26 火の山の麓 黒神村： — 草を取る老婆（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Old woman cutting grass : Human Land 1954-57（プリント1987） 21.7×32.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-592	27 火の山の麓 黒神村： — 破れた野良着（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Worn-out field smock : Human Land 1954-57（プリント1996） 32.9×21.7 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-593	28 火の山の麓 黒神村： — むしろの扉（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Straw-mat door : Human Land 1954-57（プリント1987） 32.7×21.5 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-595
29 火の山の麓 黒神村： — 牛を追う少年、燃島（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Boy driving a cow, Moejima : Human Land 1954-57（プリント1997） 31.7×48.1 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-598	30 火の山の麓 黒神村： — 燃島の流木（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Driftwood, Moejima : Human Land 1954-57（プリント1987） 33×21.8 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-599	31 火の山の麓 黒神村： — 埋れた鳥居（「人間の土地」より） Village at the Foot of the Volcano— Kurokamimura: Buried shine entrance gateway (torii) : Human Land 1954-57（プリント2020） 40.6×26.9 ゼラチンシルバープリント gelatin silver print 1-F-600